

令和7年度小児の高次脳機能障害に関する研修会概要報告

1 目 的

小児の高次脳機能障害についての認知度は高いとはいえず、高次脳機能障害の子供やその華族が適切な支援や情報提供を受けるためには、小児期以降の相談、教育等の関係機関職員への普及啓発や理解促進が重要である。

本研修会では、講演を通じて、小児期の相談、教育等に携わる関係者が高次脳機能障害の基礎知識、対応方法、家族支援等についての理解を深めることにより、高次脳機能障害や類似した対応が有効である発達障害のある児童（就学前を含む）・生徒・家族への支援の充実に図ることを目的とする。

※ 障害者施策推進部精神保健医療課と共催

※ トークセッションは昨年度と同じ内容

2 日 時 令和7年8月15日（金）午前9時から

8月31日（日）午後10時まで

3 開催方法 WEB 開催

4 定 員 700名（教育関係者450名、医療・福祉関係者250名）

5 申 込 教育関係者と医療・福祉関係者合わせて479名

（教育関係者220名、医療・福祉関係者259名）

※申し込み時の教育関係者のアンケートより

高次脳機能障害という名称は知っているが、どのような障害かはよく知らない：65.5%、高次脳機能障害の方に関わったことがあり知っている：25.9%、知らない：8.6%

6 内 容 <テーマ>「高次脳機能障害のある子供の理解

～高次脳機能障害がある私から伝えたいこと、私にとっての学生時代とは～

（1）講演「小児期の高次脳機能障害の理解と対応」

国立成育医療研究センターリハビリテーション科診療部長 発達評価支援室長 上出 杏里 氏

・小児期の高次脳機能障害、復学時に起こりうる混乱と課題、発達障害との関係、家族、きょうだい支援等について

（2）トークセッション「高次脳機能障害がある私から伝えたいこと、私にとっての学生時代とは」

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会ハイリハジュニアプラス 植木 啓太 氏

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会ハイリハキッズ代表 中村 千穂 氏

学校関係者

林田 麻理子氏

・（本人）復学後の勉強についていくのが大変だった

・（本人）同級生からからかわれたり、心無い言葉を言われた。先生に相談しようと思っても、先生の前に行くと何を話そうとしていたのか分からなくなって（忘れて）いた

・（本人）大学進学、就労では、支援が無かったり、障害があるというだけで断られたりした

・（本人）特別扱いしてほしいが、サポートが無いと困る

・（家族）復学後、高次脳機能障害によっていろいろな問題、課題が出てくる、先生から助言を求められても、家族側も混乱しているので聞かれても困る。

・（学校関係者）学校にはいろいろな子供達がいる。先生方もとても大変な状況

・（学校関係者・家族）家族と学校の間に高次脳機能障害の事をよくわかっている人に入ってもらい、課題整理と説明をしてほしい

（3）トークセッション登壇者からメッセージ

（植木氏）成長期段階で発症となると、自分の置かれている状況を把握するのは子どもだからこそ難しい。

いつも「モヤモヤ」して嫌な気持ちが残っていた。今思えば、自分のことが学校や親が決めていて、自分の意思決定がなされてなかった。自分の意見を言えるかわからないけど、聞いてほしかった。支援者の方には「同情」ではなく「同調」してほしいと思っている。

（林田氏）10年前に比べればかなり普及啓発は進んできていると思う。学校関係者はもう少し高次脳機能障害を勉強して知っていくことが必要と思う。そして、高次脳機能障害がある子供がいたら、まずはその子どもをしっかり見るのが大事。教育関係者はずっと支援はできないので、関係者、支援者の輪をつくり関わっていければと思う。ダメ出しをしない声掛け、支援が必要。

（中村氏）子どもが脳にダメージを受けたら、診断が有り無しに関わらず、家族会につながってほしい。中途障害によって辛い思い、学校への思い、家族の中が機能不全になったりしているところに、少しは役に立てると思っている。「ここで（家族会）なら本心を話せる」と言ってくれる親御さんが多い。同じ立場で、同じ経験をした、ピアの支えあいで少しでも元気になってくれたらと思っている。子どもも親御さんも一人で悩まないでほしい。家族会には仲間がいます。笑わなくなってしまった子どもや親御さんがまた

笑えるようになってくれるように開催している。今はネットでいろいろな情報が取れる。子どももネットから情報を得てしまう。親御さんも学校関係者も正しい情報・知識を得て子どもに伝えてほしい。

8 アンケート結果 回答者 168 件

【講演】（大いに参考になった 118 名、参考になった 50 名、）

- ・子どもの高次脳は大人の高次脳検査をすることが難しい場合もあり、日常生活を送りながら障害の確認や今後のフォローが必要であることを知る機会になって良かった。年齢が大人に近づくに連れて支援体制が不十分である現状も知ることができて良かった
- ・発達障害との違いや各症状に対する対応方法を具体的で、分かりやすかった
- ・高次脳機能障害について、知る機会を設けていただけて良かった。このように広く知る機会があることを今後も広めてもらいたい
- ・今回の講演で、まずは知識をつけることが大切だと感じた
- ・事例が大変具体的でわかりやすかった

【トークセッション】（大いに参考になった 120 名、参考になった 41 名、普通 7 名、）

- ・植木さんの復学したタイミングでの話が特に印象に残った。自分でもギャップを受容することが難しい中、周囲からの刺激や環境の変化など、一つ一つについていくことの大変さを知ることができた。
- ・当講義では伝わらない当事者の苦労が知れてよかった
- ・困り感のある児童と一緒に様々なことにチャレンジをしながら、どのような支援が必要かを同じ目線に立って考えていきたい。
- ・トークセッションだと内容が具体的で分かりやすい。立場の違う意見を聞くことができるため、学びが多い
- ・当事者やご家族、支援経験のある先生のお話は説得力があり、とても貴重な学びの機会となった

【インタビューについて】

- ・それぞれのみなさんの思いを改めてお聞きすることができて、大変心に刺さる。その経験や考えを共有させていただけたことがありがたかった
- ・支援について考えさせられました。声のかけ方「どうしたの？」を意識していきます
- ・福祉の支援者として意思決定支援の重要性を再認識した
- ・いただきましたメッセージを、周囲の教員とも共有したいと思う